

令和7年度 徳島県立徳島中央高等学校【通信制課程】学校評価総括評価表

【令和7年度 徳島県立徳島中央高等学校学校経営方針】

1 本校の教育目標

(1) 基本目標

生命を大切にする心を育み、心豊かな人間を育成する。学ぶ意欲と熱意に応じて、多様な学習形態と学習機会を提供し、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができる定時制・通信制教育を展開する。

(2) 重点目標（中期目標）

- ① 基本的な生活習慣を確立し、生徒一人一台端末を活用して、基礎学力を定着させるとともに、キャリア教育、体験的活動と教育的支援の拡充を図ることにより、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ② 人権教育、道徳教育、安全教育を推進し、人権尊重の精神を尊び、自主的・自立的に行動できる人間を育成する。
- ③ 目標に向かって地道に努力する生徒を育成し、一人一人の生徒の良さを積極的に見つけ、伸ばしていく学校づくりに努める。
- ④ 学校運営のビジョンを教職員と保護者、地域や産業界の方々と共有し、互いにパートナーとして、連携・協働のもとに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を充実させていく。

2 本年度の重点目標

(1) 生徒の学びの充実

- ① 徳島県GIGAスクール構想の推進（教育DXを加速）
- ② 人権教育の充実（他者の思いや考えを的確に理解できる想像力を育成）
- ③ 特別支援教育の充実（特別な支援を必要とする生徒への対応）
- ④ 主権者、消費者、防災教育の充実（成人年齢引下げに対応した安全で安心な教育）

(2) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（わいせつ、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 次世代を見据えた人材育成（校内研修の充実とチーム学校として年代を超えた学び合い）
- ③ 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

(3) 学校の特色化、魅力化（目指す学校像）

- ① スクールポリシーの共有（生徒一人一人が主体的な学びに取り組むことを支援）
- ② 地域に開かれた学校（定期的な情報発信）
- ③ 生徒、保護者が学びたい、学ばせたいと思う学校（様々な体験活動を通じて豊かな人間性や社会性を育む）
- ④ 地域から信頼され、愛される学校（保護者、地域住民や学校運営協議等の意見を的確に反映させる）

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価		学校関係者の意見
	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定)		
1 生徒の 学びの 充実を 図る	①-1 「学習支援」制度の利用を促し、個に応じたより丁寧な学習指導を行うことで、基礎学力の定着と単位修得率70%以上をめざす。 (全年次)	①-1 学習状況通知を年8回送付し、状況を周知するとともに、学習支援が必要な生徒には、教科担任と担任が連携して個別に連絡し指導にあたる。 (全年次)	①-1 学習状況通知を8回送付し、生徒・保護者への状況周知に努めた。学習支援制度を多くの生徒が利用し、単位習得率は約70%であった。 (A) (全年次)	A ----- ①学習支援制度や、ICTの活用により、単位修得率は目標を達成できた。また、ICT研修により、通信制に適した教材作成の研究を推進できた。 (教務) 進路指導については、担任と連携して必要な情報提供や個別指導を丁寧に行った。進路関係資料を発行した。 (進路・厚生) ②講演会や映画会等の機会を通して人権感覚や知的理解の深まりを促すことができた。 (人権・特別支援) ③外部機関を含めた支援体制を構築し、幅広く丁寧な指導・支援を行うことができた。 (人権・特別支援) ④計画通りに講演会や記事掲載等を実施することができたが、さらに関心を高める取組が必	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修を複数回実施するなど、ICTを活用した授業改善を進めている点は評価できる。 教員間で活用の質に差が出やすいため、授業事例共有や研修の継続により、学校全体としての底上げを図ることが課題ではないか。 通信制におけるICT活用とは具体的にどのようなことですか。 進路指導満足度が93%に達しており、先生方のご尽力をあらためて感じました。学習支援制度を多くの生徒さんが利用されており、先生方に上手に頼ることができていると感じました。ICT教育の強みを通信制に取り入れられているのではないかと感じました。限られた時間の中でも積極的な指導をされている様子が見え、うかがえました。 通信教育において、生徒の実情、ニーズを把握し、一人一人へのきめ細かい教育支援が展開されている。外部機関の支援体制の構築がなされている。ICTの活用により、より適した教材が作成されて 	
	①-2 「自学自習」をサポートするため、生徒1人1台端末の活用を促進し、生徒の面接指導満足度を85%以上にする。 (教務)	①-2 教員のICT活用能力向上及び教材作成等を支援するため、ICT研修を前期後期各2回以上実施する。 (教務)	①-2 ICT研修を年間で6回行い、教員のICT活用能力向上に努めた。また、生徒の面接指導満足度は満足が72.7%、ほぼ満足が25%であった。 (A) (教務)			①-1 個に応じた指導を行うことにより、生徒の計画的な自学自習のサポートに努め、単位修得率のさらなる向上を図りたい。 (全年次)
	①-3 電子黒板や1人1台端末を利用し、生徒の適性の把握や情報収集に努め、年間1回以上進路資料の発行とキャリアガイダンスを実施し、生徒の学びを支援する。(進路・厚生)	①-3 進路資料の発行やキャリアガイダンスを通して情報提供を行い、ICTを活用した進路個別面談の機会を生徒に対して延べ40回以上設け、適切な助言を行う。(進路・厚生)	①-3 進路資料の発行やキャリアガイダンスを行ったり、三者面談や進路個別相談を積極的に実施した結果、生徒の進路指導満足度が、93.0%に達した。 (A) (進路・厚生)			①-2 通信制での学習の実態やニーズにあったICTの活用方法の研究を継続し、スクリングがより効果的に行えるように務める。 (教務)
	② 人権感覚の育成や人権に関する知的理解を深めるため、人権映画会、人権講演会を各1回実施し、「人権通信」を年2回発行する。 (人権・特別支援)	② 人権に関する行事の周知を複数の方法で行い、参加を促すとともに、SHR等で「人権通信」を活用して身近な人権課題を取り上げ、人権尊重の精神の涵養に努める。 (人権・特別支援)	② 「徳島中央通信」や各クラスでの声かけ等で行事の周知を行い、木曜日に人権講演会、日曜日に人権映画会を実施した。8月と12月に「人権通信」を発行し、本科生全員に郵送した。 (A) (人権・特別支援)			①-3 学校評価アンケートでは、進路指導に対する保護者の満足度が81.3%であった。次年度は、更に保護者との連携を深め、満足度85%以上を目指したい。 (進路・厚生)
	③ 年2回発行する「人権通信」に、特別支援教育の内容を記載するとともに、MetaMojiclassRoomを活用した啓発に努める。 (人権・特別支援)	③ 特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、個別最適な学習支援について研究する。 (人権・特別支援)	③ 「徳島中央通信」MetaMojiclassRoom等において、特別支援教育について啓発を行うとともに外部機関に相談しやすい環境作りに努め、教育相談についての生徒アンケートでは満足64.3%ほぼ満足33.3%、保護者アンケートでは満足41.2%、ほぼ満足52.9%であった。(A) (人権・特別支援)			② 講演会や映画会等に自ら進んで参加する生徒を増やすことが課題。アンケートの分析をふまえた対策を講じていきたい。 (人権・特別支援)
④ 生徒アンケートにおいて、学習や活動を通し「政治や選挙への関心が高まった」と回答する率が50%以上をめざす。 (主権者教育)	④ 「徳島中央通信」に主権者教育や消費者教育に関する記事を載せるとともに、主権者教育講演会を開催し、啓発に努める。 (主権者教育)	④ 満足が9.3%、ほぼ満足が55.8%であった。「徳島中央通信」に参院選関連等の記事を掲載し、主権者教育講演会を日曜木曜各1回実施した。講演会の参加者が少ない	③ 今後も生徒一人一人に応じた支援について研究し、生徒が悩みを相談しやすい環境づくりに務めるとともに、外部機関との連携を今後とも進めていきたい。			

			ことが課題となった。 (A) (主権者教育)	要である。 (主権者教育)	いる。	(主権者教育)
--	--	--	---------------------------	------------------	-----	---------

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見		
2 教職員の 資質向上に 努める	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B		
	① 令和7年度コンプライアンス推進計画の推進テーマに基づき、わいせつ・ハラスメント行為の根絶徹底と不適切な指導・体罰の根絶徹底を図るため、コンプライアンス研修を年10回以上実施する。 (校務運営)	①-1 コンプライアンス推進計画に基づいて研修を行うとともに、各種ハラスメントを許さない職場の雰囲気作りに努め、互いに認め合い支え合える職場環境を整える。 (校務運営) ①-2 中央高校及びしらさぎ中学校と連携したコンプライアンス研修会、メンタルヘルス研修会を実施する。 (校務運営)	①-1 ICTを活用したアンケートを実施したり、職朝等の機会を捉えてコンプライアンス研修やミニ研修、周知等を実施し、互いに支え合える環境づくりに努めた。 (B) (校務運営) ①-2 中央高校・しらさぎ中学校合同コンプライアンス研修会、メンタルヘルス研修会を各1回実施し、グループワーク等において課程や校種を超えた熱心な意見交換がなされた。 (B) (校務運営)	①-1研修ではICTを活用した意見収集とフィードバックを実施した。(校務運営) ①-2全校の管理職で常に情報共有をし、協働しながら、実態に即した研修会の立案、実施を行った。(校務運営)	・文化祭での防災展や体育祭での防災種目の実施など、新しい取組を積極的に取り入れ、地域と連携しながら防災意識の向上と実践的な学びの充実を図っている点が高く評価できる。 ・体育祭や文化祭でも防災教育に取り組みされており、日々の意識づけに効果を感じております。また配慮や支援が必要な生徒さんへの取り組みも丁寧にされており、より様々な事情に対応できる学校になっていくのではないかと感じております。ただし、きめ細やかな対応をされればされるほどお忙しくなると思っています。今後とも先生方のワークライフバランスへの配慮をお願いいたします。	①職場の現状把握に努め、相談しやすい環境づくりを継続して実施する。コンプライアンスやメンタルヘルス等について、研修方法や内容のさらなる見直しを継続的に検討する。また、リスクマネジメント研修等を通して、法令遵守・服務規律遵守が自分だけでなく、家族、職場や組織を守ることに繋がることを意識づける。日常的な声かけ、面談を通して互いに支え合えるウェルビーイングな環境づくりを更に推進する。 (校務運営)
	②-1 学校防災・救急救命・事故対応等の生徒や教職員の「安全・安心」に関わる研修等を年3回以上実施する。 (校務運営、防災担当)	②-1 中央高校の各課程及びしらさぎ中学校、地域と連携し、合同の研修会を実施し、学校全体が協働できる体制を構築する。 (校務運営、防災担当)	②-1 文化祭での防災展や体育祭での防災種目の実施など、新しい取り組みを行った。スクーリング時における地震・津波と火災を想定した避難訓練を実施した。3課程・しらさぎ中学校・地域と連携して実施した研修会では、外部講師による避難する際の体験を通じた研修を行った。 (A) (校務運営、防災担当)	②-1災害時に教職員が冷静かつ適切に行動できるよう、アクションカードを使用して、訓練を行った。学校評価アンケートでは、保護者から高い評価を頂いた。 (校務運営)	・教職員同士の連携を密にした、生徒ファーストの教育活動が展開されている。また、災害時に教職員が冷静に行動できるような日頃の取組が充実している。教職員間での生徒理解の話し合いが充実している。 ・一般的な研修だけで	②-1 通信制の特性上、すべての生徒が避難訓練に参加するわけではなく、また、他課程との生徒も一緒に避難する場合もある。防災に関する訓練や啓発について、検討する必要がある。 (校務運営、防災担当)
	②-2 配慮や特別の支援を要する生徒への支援について共通理解を図り、指導力を養うために、特別支援研修会を年2回実施する。 (人権・特別支援)	②-2 教育相談コーディネーターと教職員、スクールカウンセラー等が連携を図り、常に情報交換や相談を行い、配慮が必要な生徒への早期対応と個別指導の充実を図る。 (人権・特別支援)	②-2 配慮や特別支援を要する生徒への支援について共通理解を図るため、特別支援研修会を年2回開き、ケース会も適宜実施した。 (A) (人権・特別支援)	②-2教員間で生徒について相談し合う機会を多く持つことができた。 (人権・特別支援)		②-2研修会をきっかけに普段から生徒の支援について教員間で話し合う雰囲気づくりに、これからも取り組んでいきたい。 (人権・特別支援)
②-3 組織として校務運営がなされるよう、複数体制を整備し、人材育成ができる体制を構築する。 (校務運営)	②-3 組織運営体制を定期的に点検し、職員朝礼を活用した啓発に努め、「報・連・相」を通して業務の共通理解と継続を図る。	②-3 日々の観察による点検と職朝等の機会や回覧などで、情報提供・情報共有に努めた。 (B) (校務運営)	②-3各課や年次の情報共有や協力体制は整っている。 (校務運営)		②-3業務の均等化や複数体制の整備により、組織的に全員が納得感を持って業務が円滑に継続できるように配慮する。また、世代を超えて協働する中で人材育成がはかれるような体制づくりをめざす。	

		(校務運営)			(校務運営)	
③	全教職員の業務内容や勤務状況、健康等を把握するため、面談を年3回以上実施し、点検や見直し・改善を図るとともに、メンタルヘルス等の研修を年1回程度実施する。(校務運営)	③ 面談や観察を通して、全教職員の業務内容や勤務状況を点検し、見直しや改善を行うことにより、勤務の効率化とワークライフバランスの向上を図り、よりよい職場環境の実現を推進する。(校務運営)	③ 教職員の勤務状況や健康等を把握し、メンタルヘルスを維持できるように、定期面談や不定期面談を行い、課題把握に努めた。10月には、外部講師を招いて通信制メンタルヘルス研修も実施した。積極的に年休取得を呼びかけ、ワークライフバランスの向上を図った。 (B) (校務運営)	③ 定期面談は2回であったが、随時個別の相談や保護者対応への同席をし、一人で抱え込まないような配慮を心掛けた。 (校務運営)	なく、「香り」についての研修、とても良いと思いました。良い意味の“遊び”はリラックス・リフレッシュにつながったのではないのでしょうか。 ・メンタルヘルスが崩れる原因としてあげられるのは？	③ 教職員それぞれの状況を把握し、早期に対応ができるよう、面談や日々の会話、観察を通して、適切に対応できるように心掛ける。セルフマネジメントができるよう、アンガーマネジメント研修等のメンタルヘルス研修のさらなる充実を図りたい。 (校務運営)

	評価指標(数値目標)	活動計画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定)		
3 学校の特色化、魅力化(目指す学校像)を推進する	①-1 スクールポリシーをHPに掲載し周知を図るとともに、実現を図るため、年2回の管理職による面談や学校評価アンケート等において、点検する機会を設ける。 (校務運営)	①-1 目標管理シートの作成時において、学校経営方針やスクールポリシーに基づいた目標設定を行うよう、周知するとともに、面談時に助言を行う。 (校務運営)	①-1 5月面談にて、目標設定や評価指標への助言を行い、学校経営方針等を共通理解した。学校評価アンケート結果を配付して、目標管理シート(最終申告)に反映させ、自己評価及び学校評価につなげた。 (A) (校務運営)	A ----- ①-1 生徒・保護者・教員の3種類の学校評価アンケートを配付する際に、共通点や相違点を確認できるようにした。 (校務運営)	・学校HPの情報を適時更新し、学校の取組を積極的に発信している点が評価できる。 ・行事報告に加え、「ねらい」や「成果」をわかりやすく整理して発信することで、教育活動の意義がより伝わりやすくなると思います。	①-1 年度当初だけでなく、機会を捉えてスクールポリシーや学校経営方針の周知や達成度を共通理解し、通信制の特性を活かした魅力について考える機会を設定することで、積極的な進路選択につなげていきたい。 (校務運営)
	①-2 学校開放の日、転入ガイダンス等の機会を生かし、スクールポリシーに基づいた説明を行う。 (校務運営、教務)	①-2 通信制生徒として、「自学自習」や「時間の管理」が重要であることを機会を捉えて、周知する。 (校務運営、教務)	①-2 学校開放の日、転入ガイダンスにおいて、スクールポリシーに基づいた説明を行った。資料の作成・配付により周知に努めた。 (A) (校務運営、教務)	①-2 入学希望者に対して、スクールポリシーに基づいた説明を行うことができた。 (校務運営、教務)	・昨年も感じたのですが、中央高校の大きな魅力の一つは、学び直しの授業が組み込まれていることだと思います。希望者は学力に合わせて学び直してから高校の学習に進めるという点をもっとアピールしてもよいのではないのでしょうか。不登校経験者や学習の機会を逃した人たちにとって、学び直しができることが目に見えてわかり、安心して入学することができると思います。	①-2 通信制教育について正しく理解をしたうえで、入学してもらえるよう、引き続き周知に努めていきたい。 (校務運営、教務)
	②-1 学校開放の日を年間4回実施し、入学希望者や地域の方々に開かれた学校づくりを推進するとともに、学校ホームページの更新を月10回以上をめざす。 (校務運営、教務)	②-1 6月、7月、11月に学校開放の日を実施し、通信制教育についての理解を深める取組を行うとともに、通信制課程の情報を積極的にホームページを活用して行う。 (校務運営、教務)	②-1 4回の学校開放の日の実施と別日の希望者も合わせて、15組33名に学校見学・説明を行い、通信制教育への理解を深めることができた。また、学校ホームページは月平均16回更新し、情報提供について生徒は98%・保護者は94%が満足・ほぼ満足であった。 (A) (校務運営、教務)	②-1 学校開放の日の実施により通信制教育への理解を深めることができた。また個別対応で不定期に説明を行った。積極的にHPや1人1台端末を活用し、情報提供・情報発信に努めた。 (校務運営、教務)		②-1 学校開放の日や学校見学、ホームページ等を通じて通信制教育への理解の拡充に努めたい。加えて、より見やすく、通信制の魅力をより発信できるホームページの充実をはかりたい。 (校務運営、教務)
	②-2 「特別活動時間」として認定できる行事を設定するとともに、参加について、掲示・郵送・ホームページ・呼びかけ等、複数の方法で周知するとともにデジタルサイネージを積極的に活用する。 (生徒・特別活動)	②-2 特別活動課教員や生徒会役員が中心となり、学校行事への積極的な参加を呼びかけるとともに、行事報告をホームページ等で行う。 (生徒・特別活動)	②-2 文化祭や主権者教育講演会、遠足等について本科生全員に案内を郵送し参加者を募った。デジタルサイネージに行事の予告を表示し積極的な参加を促したりホームページ上に行事の様子がわかる記事を掲載した。 (A) (生徒・特別活動)	②-2 郵送だけでなくICTを利用した視覚に訴える情報提供・情報発信は効		②-2 通信制における行事の見直し、情報発信を工夫し、より多くの生徒が積極的に参加できるようにさらなる改善を行いたい。 (生徒・特別活動)

<p>③-1 保護者との連携の機会としてPTA総会・個人面談や、PTA研修会(年2回)に、10名程度の保護者の参加をめざす。(総務)</p> <p>③-2 「生徒生活体験発表会」を企画し、様々な立場にいる人について知る機会を設け、発表者3名以上、視聴者20名以上をめざす。(生徒・特別活動)</p> <p>③-3 すべての教育活動を通していじめや暴力の未然防止の取組を行い、いじめゼロをめざす。(生徒・特別活動)</p> <p>③-4 多様な生徒の実態把握に努めるとともに、個々の生徒や保護者の願いに応じたきめ細かな指導・支援を図るため、各種サポート事業を活用する。(人権・特別支援)</p>	<p>③-1 「徳島中央通信」「今日のお知らせ」「HP」や家庭への案内文書の配布等、学校の諸活動について広報し、保護者の参加を促す。(総務)</p> <p>③-2 7月に「生徒生活体験発表」を計画し、発表を聞くとともに、参加者が意見交換できる機会を設ける。(生徒・特別活動)</p> <p>③-3 生徒の実態に応じた丁寧な対応を心がけ、人権尊重の精神に基づいた言語環境及び教室環境の適正化を図るとともに、いじめ防止の啓発を行う。(全教職員)</p> <p>③-4 必要に応じて、特別支援委員会(ケース会)等を開催し、教職員の共通理解を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携する。(人権・特別支援)</p>	<p>③-1 PTA総会・個人面談には8名、PTA研修会(年2回)には2回合わせて7名の通信制の保護者の参加があった。(A) (総務)</p> <p>③-2 「いじめに関する調査を」7と12月に実施した。通信制の特性に考慮し、記名式で調査した結果、いじめの報告はなかった。(A) (生徒・特別活動)</p> <p>③-3 スクールカウンセラーをはじめスクールソーシャルワーカー、心と学習の支援員等の方々と連携し、生徒の指導・支援を行うことができた。(A) (人権・特別支援)</p>	<p>果的であった。 (生徒・特別活動)</p> <p>③-1 PTA会長を中心に、役員が積極的に発案や協力をし、学校行事を盛況のうちに終えることができた。(総務)</p> <p>③-2 いじめは絶対に許されないことを教職員で共通理解を図り、指導した。(全教職員)</p> <p>③-3 外部機関を含めた支援体制を構築し、幅広く丁寧な指導・支援を行うことができた。(人権・特別支援)</p>	<p>③-1 次年度も同様に、様々な方法で、学校行事について広報し、保護者の方々の学校行事参加を促したい。(総務)</p> <p>③-2 生徒の実態把握と教職員間の共通理解を図り、生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを継続する。(全教職員)</p> <p>③-3 今後も、個々の生徒や保護者の願いに応じたきめ細かな指導・支援を図るため、各種サポート事業を活用していきたい。(人権・特別支援)</p>
<p>④-1 生徒間の連帯感や地域との関わりを築くため、生徒会役員を中心に「あいさつ運動」や「ごみゼロ運動」を前後期に1回実施し、参加数10名以上をめざす。(生徒・特別活動)</p> <p>④-2 年間3回以上の学校運営協議会を開催し、学校と協議会が課題を共通理解し連携して、教育活動を充実できるようにする。(校務運営)</p>	<p>④-1 スクーリング(木・日)において、登校時に「あいさつ運動」、昼休みに「ごみゼロ運動」を実施し、共に学ぶ仲間としての連帯感を高めるとともに、通信制への理解を深めてもらう機会をつくる。(生徒・特別活動)</p> <p>④-2 通信制についての情報提供を行い、理解を深めてもらうとともに課題を共有し、協議会や地域の力を借りながら、充実した教育活動をめざす。(校務運営)</p>	<p>④-1 昼休みに「ごみゼロ運動」を日曜日に1回ずつ生徒会と教員で実施した。(B) (生徒・特別活動)</p> <p>④-2 年3回の学校運営協議会を開催し、第2回では、各課程の防災担当者も参加し、防災に関する特設的な取組や連携についてプレゼンし、理解を深めていただく機会を得ることができた。(A) (校務運営)</p>	<p>④-1 生徒の体調や状況に配慮しながら、無理のない範囲で行った。(生徒・特別活動)</p> <p>④-2 管理職だけでなく、各課程の教員も参加することで、学校での教育活動について、管理職以外の言葉で発信することができた。また、教員に学校運営協議会</p>	<p>④-1 生徒全員への周知を行ったり、参加を促したりして、参加率を上げ、活動を継続する。(生徒・特別活動)</p> <p>④-2 今後も学校運営協議会の委員の方々やPTA、同窓会等の関係者の方々と連携し、地域から信頼され愛される学校、生徒が学びたい、保護者が学ばせたいと思う学校として、通信制課程をより魅力あるもの</p>

			の様子も伝えることができ、多くの方々とともに自分たちが学校をつくっているという気概を持ってもらうことができた。 (校務運営)	にすべく取り組んでいきたい。 (校務運営)
--	--	--	---	--------------------------

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった